

第15回 京都府における スポーツ施設のあり方懇話会 資料

令和5年8月3日

＜配布資料 目次＞

- 1 当懇話会の開催経過
- 2 府内スポーツ施設の現状
- 3 府に必要な屋内スポーツ施設のスペック（案）
- 4 近隣府県の状況
- 5 最新のスポーツ施設の現状
- 6 屋内スポーツ施設整備の検討状況

1 当懇話会の開催経過

< 当懇話会の設置目的 >

京都府におけるスポーツ施設のあり方について、スポーツ振興や行政経営等に関して優れた識見を有する専門家から多角的に意見を聴くために設置するもの

< 開催経過 >

平成22年度 「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」設置
～平成25年度 新球技場（サッカースタジアム）や府立体育館リニューアル等
について意見聴取を実施

平成28年度 通年型アイススケート場の整備について意見聴取

今 回 屋内スポーツ施設の整備について意見聴取

2 府内スポーツ施設の現状

全国からみた京都府の大規模スポーツ施設数の状況 スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査（令和3年度）」を基に算出

施設種	施設総数	大規模施設数	大規模施設数の 全国順位	大規模施設数 人口当たりの全国順位
陸上競技場	23	19 <small>1周400mのトラックを有するもの</small>	27位	40位
野球場 ソフトボール場	115	40 <small>10,000㎡以上</small>	42位	44位
球技場	48	23 <small>10,000㎡以上</small>	25位	36位
多目的運動場	797	240 <small>10,000㎡以上</small>	31位	44位
体育館	873	114 <small>1,300㎡以上</small>	33位	44位

府内における過去10年間の国際大会の開催状況（屋内スポーツ）

開催年	大会名	会場
平成25年	バレーボールWorld Grand Champions Cup 2013	島津アリーナ京都
平成26年	バスケットボール男子日本代表国際親善試合2014	京都市体育館
平成26・27年	FIVBワールドグランプリ2014・2015 男子バレーボール大会	島津アリーナ京都
平成28年	FIVBワールドグランプリ2016 女子バレーボール大会	島津アリーナ京都

⇒ 近年、屋内スポーツに係る国際大会の開催実績は増加できておらず、近隣地域でアリーナの新設が進んでいることから、今後の大会誘致が一層困難となる恐れがある。

3 府に必要な屋内スポーツ施設のスペック（案）

各種屋内スポーツの国際大会等を開催する場合の施設要件

競技種目	大会等	要件		
		競技面	天井高さ	観客席
バレー	世界選手権	31m×19m (フリーゾーン含む)	12.5m以上	15,000席以上
	世界選手権予選			5,000席以上
	Vリーグ (S1)			3,500席以上
	Vリーグ (S2)			1,500席以上
	Vリーグ (S3)			750席以上
バスケ	世界選手権 (男子)	28m×15m	7m以上	15,000席以上
	世界選手権 (女子)			8,000席以上
	世界選手権予選 (男子)			
	オセアニア最終予選 (男子)			
	Bリーグ (チャンピオンシップ 決勝)			5,000席以上
	Bリーグ (B1)			
	世界選手権予選 (女子)			4,000席以上
	オセアニア最終予選 (女子)			
	ユース世界選手権			3,000席以上
Bリーグ (B2)				
バドミントン		13.4m×6.1m	12m以上	
卓球	Tリーグ (プレーオフ)	14m×7m	3m以上	5,000～10,000席
	Tリーグ (レギュラーシーズン)			2,000～3,000席
ハンドボール	世界大会決勝	40m×20m	7m以上	15,000席以上
体操	世界大会	12m×12m (床マット)		6,000席以上

※新設される「S-V.LEAGUE」においては、2030年以降5,000席以上の観客席数を有することが基準要件となる。

⇒ 京都府としては、国際大会やプロスポーツ等の開催が実現するよう積極的な誘致を図っていきたいと考えている

新設する屋内スポーツ施設に求められるスペック（案）

スポーツ大会開催のための要件

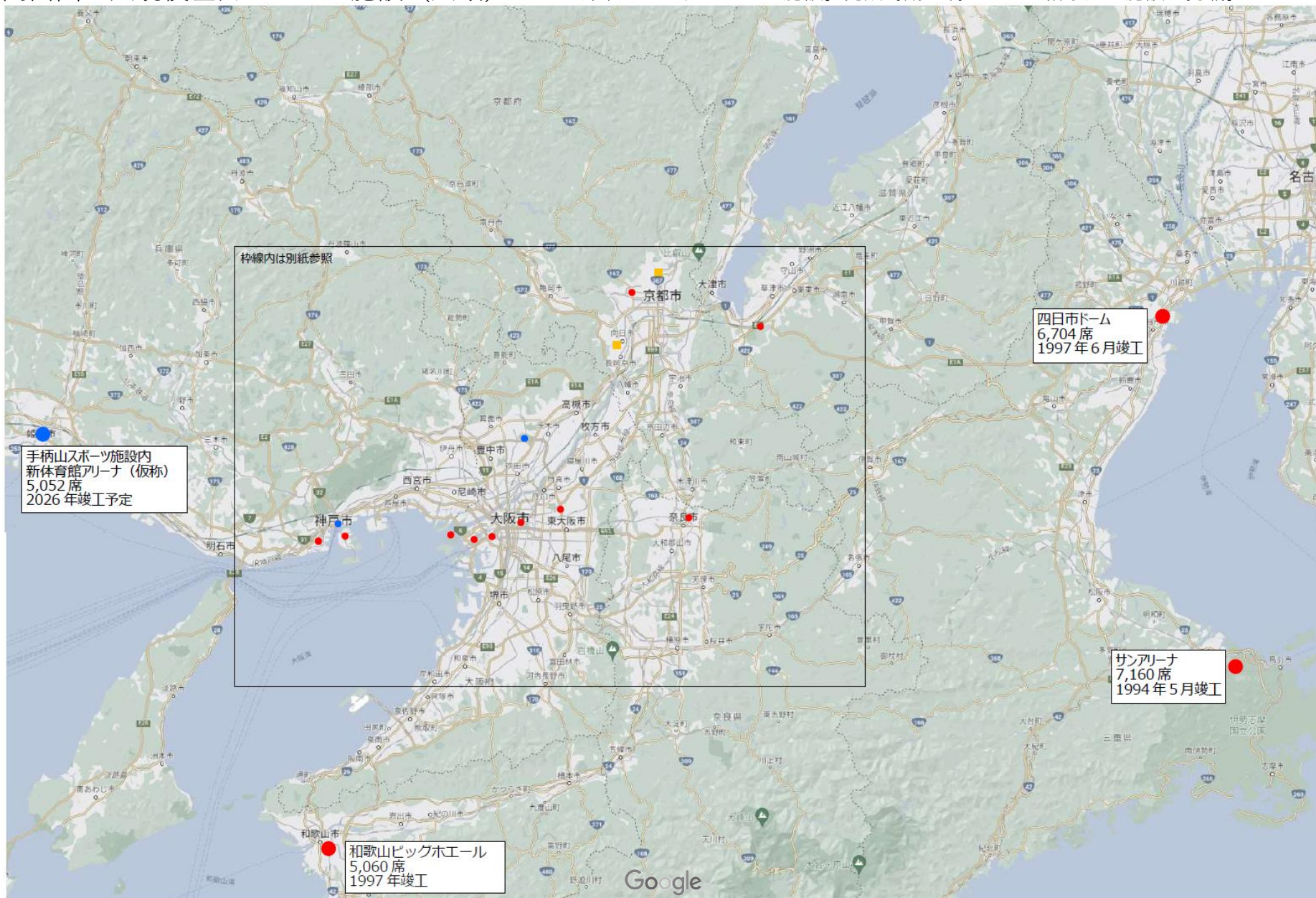
項目	スペック	考え方
競技面（コート）	バスケットボール及びバレーボールコート3面分	・他スポーツでの公式試合等にも対応できる大きさを想定
観客席	5,000席以上	・バレーの世界選手権予選の開催が可能 ・VリーグやBリーグ、Tリーグの試合開催が可能
その他諸室	—	・運営関係者等が必要とする用途に対応し、機能的で使いやすい部屋数、面積が必要

スポーツ利用の他に想定される機能

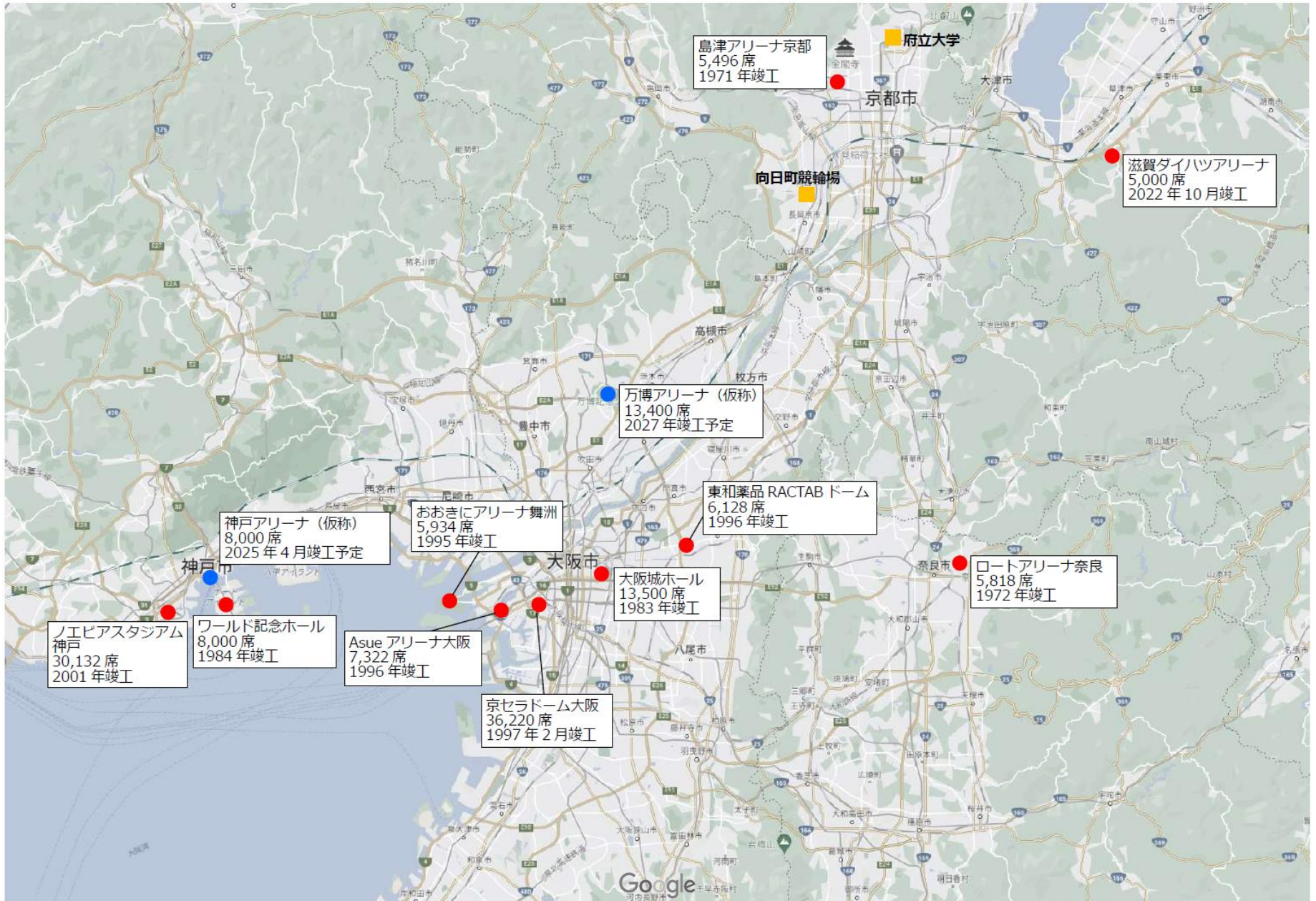
- ・避難所等の防災機能の付加
- ・展示場機能等MICEでの活用
- ・コンサート等文化イベントでの活用

4 近隣府県の状況

関西圏の大規模屋内スポーツ施設（広域） 5000席以上の屋内スポーツ施設。完成時期が明らかな整備予定の施設も掲載。



京都近辺の大規模屋内スポーツ施設 京都府内及び近県の5000席以上の屋内スポーツ施設。完成時期が明らかな整備予定の施設も掲載。



5 最新のスポーツ施設の現状

沖縄アリーナ【多機能化】

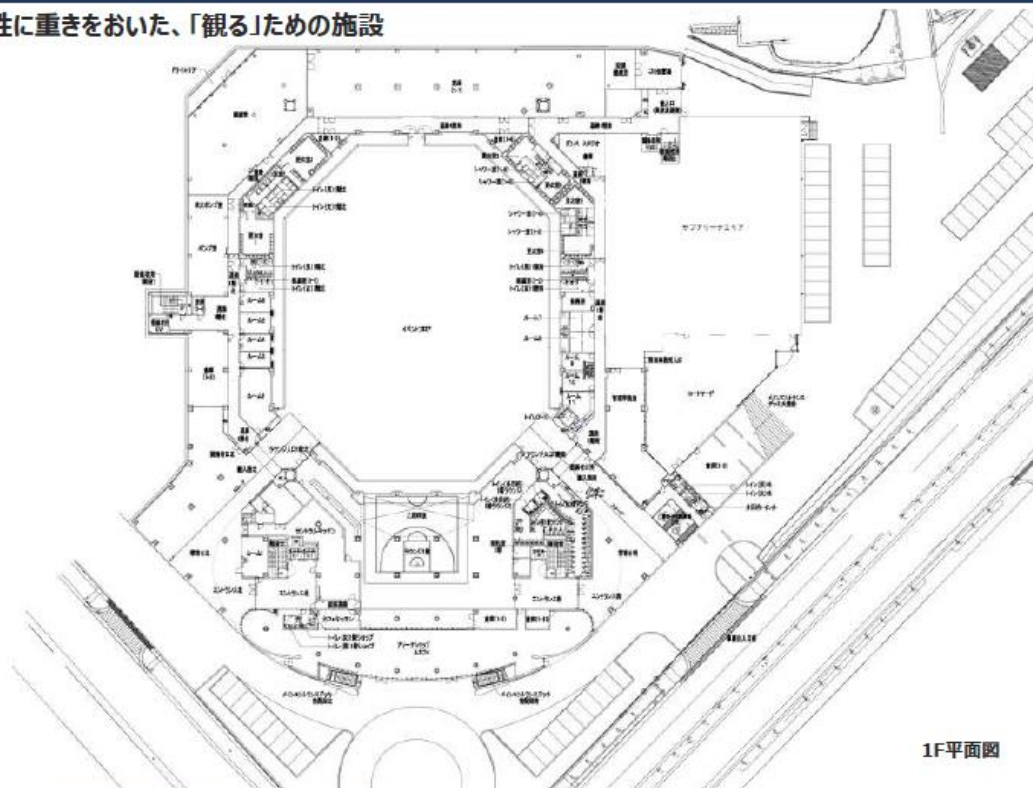
「未来を創り、地域を活性化するアリーナ」、来場者や主催者の利便性に重きをおいた、「観る」ための施設

【施設概要】

- ・所在地：沖縄市（路線バス『沖縄市運動公園前』徒歩約10分/シャトルバス運行）
- ・開業時期：2021年3月
- ・敷地面積：約229,500㎡（駐車場 約1,100台）
- ・延床面積：27,511㎡
- ・施設規模：S造、6階建
- ・収容人数：10,000人
- ・ホームチーム：琉球ゴールデンキングス（B1）



イベントレイアウト



1F平面図



出典：沖縄アリーナ公式ホームページ、沖縄市ホームページ、琉球ゴールデンキングスYouTube

SAGAアリーナ (SAGAサンライズパーク内) 【多機能化】

国スポ大会開催を契機とし、トップアスリートやプロの試合を快適な環境で観戦できる「見る」スポーツへの対応と、多目的利用を実現するアリーナの整備

【施設概要】

- ・所在地：佐賀市日の出町 (JR佐賀駅徒歩約15分)
- ・開業時期：2023年5月
- ・敷地面積：約168,000㎡ (駐車場 約1,500台/サンライズパーク全体)
- ・延床面積：約29,800㎡
- ・施設規模：S造、4階建
- ・収容人数：約8,400席 (メインアリーナ)、約450席 (サブアリーナ)
- ・付帯施設：陸上競技場、水泳場、球技場、ライフル射撃場、飲食・物販等
- ・ホームチーム：佐賀バルナーズ (B1)、久光スプリングス (Vリーグ)



観客席 約8,400席
(固定約6,300席、可動約2,100席)
※最上階95席、BOX席28席、ファミリー席64席

***スケートリンクの設置**
「プリンセスアイスワールド」。公演5日前から会場を設営、2日間かけ厚さ7cmのリンクを張る。リンクの撤去は排水しやすい構造により約8時間で氷を溶かし排水 (通常は自然解凍約2週間)



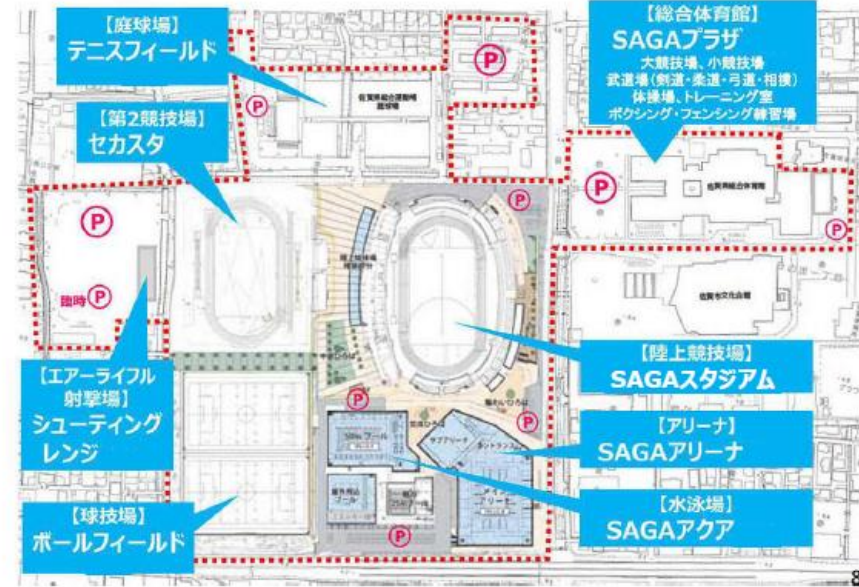
コンサート
床面積 3,400席 (8階×縦15×横8+240席)
スチール幅 24M 奥行 1.5M
TOTAL 約8000席



シアター+シアター
床面積 2,600席 (6階×縦22×横10+2面)
TOTAL 約7200席



スクール+展示会
床面積 800席 (6階×縦15×横9)
展示約45小間 (1小間3.8m×3m)



SAGAアリーナ/Bリーグゲーム



SAGAアリーナ/アイスショー



ボールフィールド (球技場) /人工芝2面



SAGAアクア/50m国際基準競泳プール



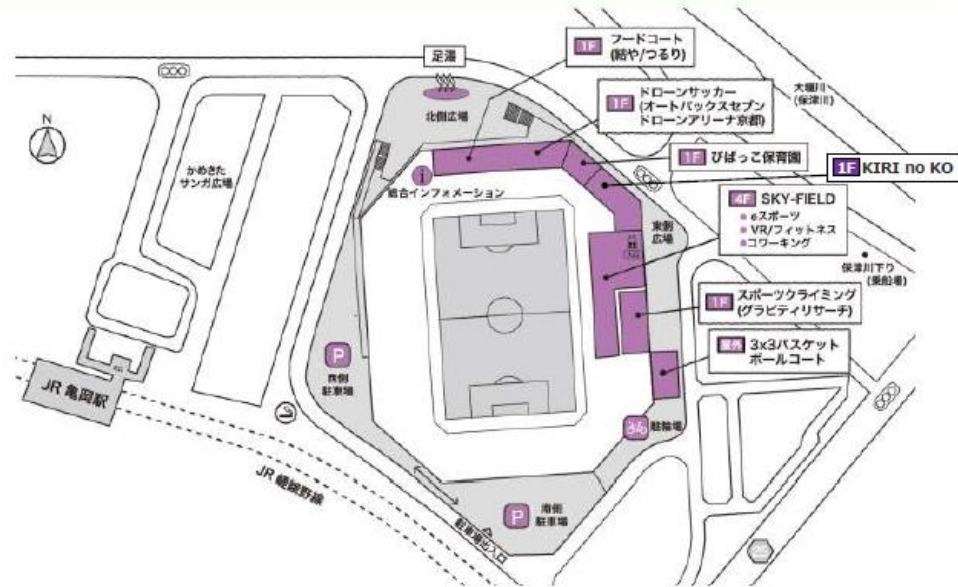
SAGAアクア/国内基準飛込プール

京都府立京都スタジアム【複合化】

スタジアムを軸とした地域活性化、試合がない日も収益が見込める複合施設

【施設概要】

- ・所在地：京都府亀岡市（JR亀岡駅、徒歩3分）
- ・開業時期：2020年1月
- ・敷地面積：約33,140㎡（駐車場 73台、試合・イベント時は関係者専用）
- ・延床面積：約35,600㎡
- ・施設規模：RC・S造、4階建
- ・収容人数：約21,600人
- ・施設内容：VR/フィットネスゾーン、eスポーツゾーン、スポーツライミング、保育園等
- ・ホームチーム：京都サンガFC（JI）
- ・新型コロナウイルス感染拡大中に開業
- ・密になることなく、オープンに使える場所として、逆に地元や関係者に様々な使い方をアピール
- ・ピッチを使用した地元中学校の体育祭実施、亀岡市の成人式も開催
- ・京都府の新規採用職員の研修にも使用
- ・周辺のにぎわいも含め、365日楽しめるテーマパークを目指す



ドローンサッカー®、最新戦略型チームスポーツ。バリアフリーな競技



スタジアム内の保育園。ピッチの芝生を園庭にも



木育ひろば KIRI no KO



国際基準を満たした屋内型クライミングジム



【4階SKY-FIELD】eスポーツスタジアムとしても運用構想



4階 VR/フィットネス先端テクノロジー活用健康づくり



4F コワーキングゾーン



事前予約制の3x3バスケットボールコート、利用は無料

長崎スタジアムシティ【複合化】

サッカースタジアムを中心にアリーナ・オフィス・商業施設・ホテルなどの周辺施設を民間主導で開発するプロジェクト

【施設概要】

- ・所在地 : 長崎市幸町 (JR長崎駅徒歩10分)
- ・開業時期 : 2024年
- ・敷地面積 : 74,752㎡
- ・延床面積 : 176,346㎡
- ・施設規模 : RC,S,SRC造、16階建
- ・収容人数 : 20,000席 (スタジアム)、約6,000席 (アリーナ)
- ・施設内容 : スタジアム、アリーナ、屋外コート/ホテル、オフィス、ショッピングモール
- ホームチーム : V・ファーレン長崎 (J2/スタジアム)、長崎ヴェルカ (B3/アリーナ)



スタジアムの上空を通過する“ジップライン”※
※ワイヤーロープベルト・ハーネスを装着し下がり、ブリー (滑車) を使って滑り降りるアクティビティ



ホテルはスタジアムビューの客室などを用意。試合時はVIP用観戦ルームにも



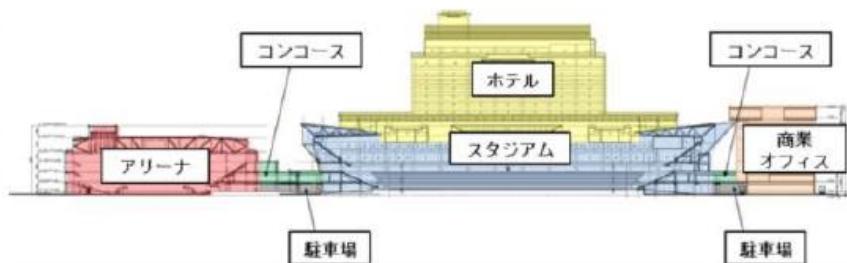
オフィス棟 約20,000㎡



ショッピングモール 約20,000㎡



ホテル 約270室



アリーナ 約6,000席



コンコース

HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE 【複合化】

野球の試合観戦だけでなく、ファン、パートナー、地域の皆様と一緒に、地域社会の活性化や社会への貢献につながる“共同創造空間”を目指す

【施設概要】

- ・所在地：北海道北広島市（JR北広島駅バス5分）
- ・開業時期：2023年3月
- ・敷地面積：約320,000㎡（駐車場 約4,000台）
- ・延床面積：120,432㎡
- ・施設規模：S一部RC造、地上6階地下2階建（エスコフィールド）
- ・収容人数：約35,000人（エスコフィールド）
- ・付帯施設：ホテル、サウナ、ミュージアム、飲食（エスコフィールド内）
トッラン、アスレチック、農業学習施設、宿泊、子ども園等
- ・ホームチーム：北海道日本ハムファイターズ（パリーグ）



一棟貸切りのフライトヴィラ



大人から子供まで楽しめる体験型アクティビティ施設



外光が入る明るいスタジアム、世界最大級の大型ビジョン



思いきり遊べる 約1,900㎡に広がる屋内外のあそび場



農業学習施設「AGRI FRINT」。食と農業を体感する施設

6 屋内スポーツ施設整備の検討状況

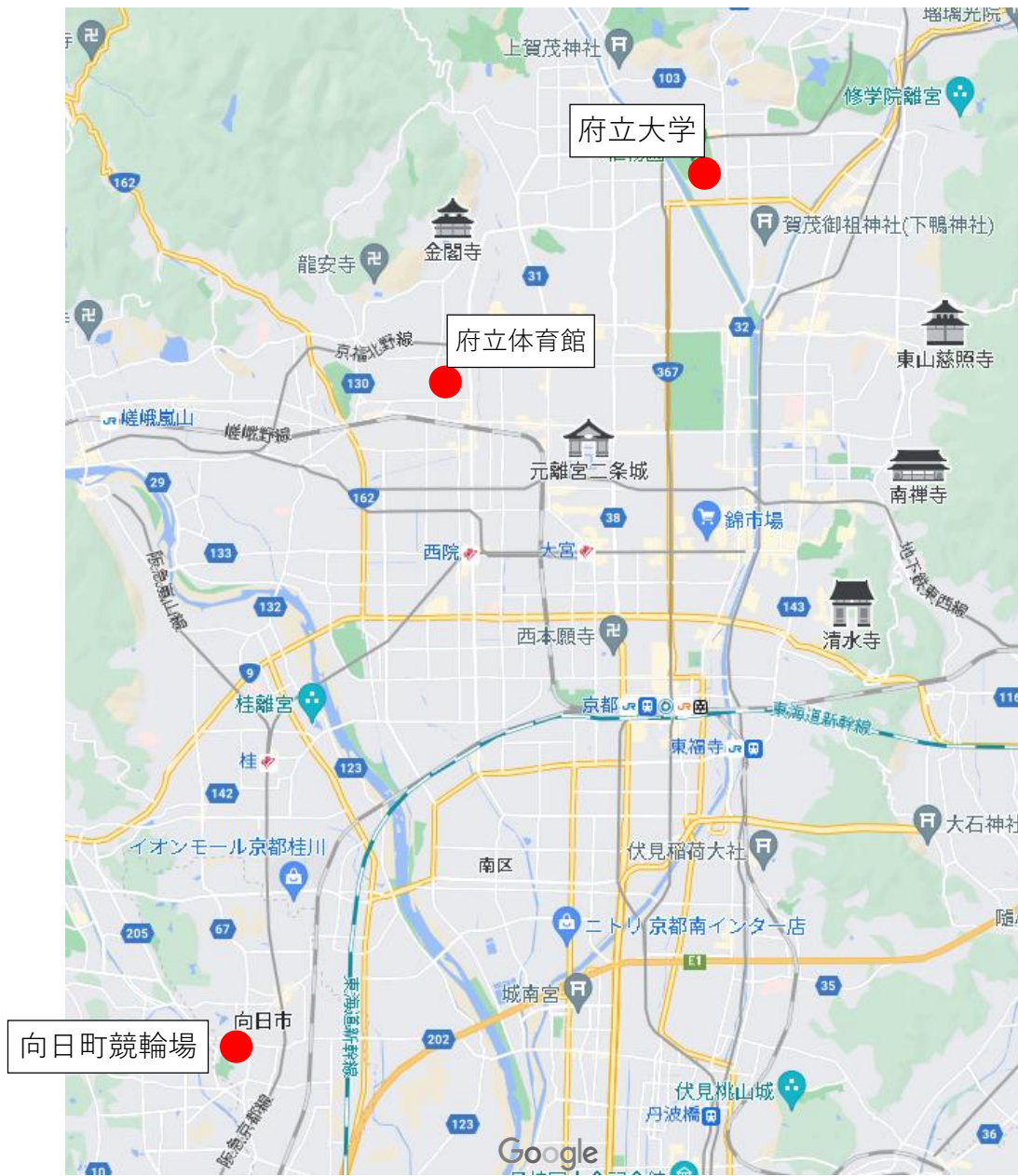
京都府において屋内スポーツ施設の整備が検討されている場所

(参考)

	府立大学共同体育館	向日町競輪場
所在地	京都市左京区下鴨半木町1-5	向日市寺戸町西ノ段5番地
敷地面積	104,576㎡ (府立大学下鴨キャンパス敷地全体)	56,535㎡
検討経過	P.16参照	P.18参照
現敷地内の施設状況	<ul style="list-style-type: none"> 第1体育館 フロア面積：1,283㎡ 第2体育館 卓球室、多目的室、トレーニングルーム、武道場 	<ul style="list-style-type: none"> 競走路（400mバンク） 投票所（第1～第5、中央） 観覧席（第1・第2、中央、特別） 選手宿舎、選手管理センター サイクルパーク京都（BMXフリースタイルコース・パンプトラック等） 向日町会館（会議室）

京都府立体育館 (島津アリーナ京都)
京都市北区大將軍鷹司町
12,843㎡
【既設】 昭和46年10月10日開館 平成25年 改修
<ul style="list-style-type: none"> 第1競技場 フロア面積：2,242㎡ 固定席：5,016席 可動席：480席 第2競技場 フロア面積：864㎡

整備検討場所の位置



①府立大学共同体育館に係る検討状況

R4.8～ 共同体育館整備に係る意見聴取会議

有識者から、学生利用を大前提とした上で、新しい大学体育館のあり方について意見聴取

第1回～第2回会議での主な意見

大きく5つの観点について、各委員から意見を聴取

①	大学体育館としての利用	学生・地域・府それぞれの意見の真ん中に三方よしとなるような施設として位置付けられるべき 等
②	大学の教育・研究機能の向上	先端的で、地域と調和した施設となれば、大学としてかなり大きな宣伝効果がある 等
③	大学スポーツ等の拠点形成	大学利用状況を踏まえながら、地域や大会等での利用を考えていくことが必要 等
④	周辺環境との調和と地域住民の利便性の向上	地震や水害等の災害時に地域の安全拠点となるような施設になるとよい 等
⑤	誰もが使いやすい体育館	多様性と調和に配慮した施設整備を行う際には、多くの方がそこに集えるようなアクセシビリティの確保が重要 等

第3回会議での主な意見

直近に開催した会議での各委員意見の概要は次のとおり。

- ・大学の体育館としては、既存の第2体育館を残しながら、第1体育館のコート面をバスケット2面分から3面分に拡張する規模で十分ではないか
- ・府民と学生の意見のバランスをとっていくことが大事
- ・学生利用を大前提に考えるならば、金銭的・非金銭的な便益に照らして、投資が見合うか否かの判断をしていく必要がある
- ・整備を検討するうえで、学生の意見を集めるプラットフォームを活用していくことが重要
- ・府内に体育施設が足りない問題は北山だけで解決する問題でなく、府域全体で解決すべきもの

②向日町競輪場に係る検討状況

R4.7～ 向日町競輪事業外部有識者会議

向日町競輪の今後の事業運営について、幅広い視点から意見を聴取することを目的に設置



R5.2 向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方

- ・令和7年度以降も競輪事業を継続
- ・競輪開催の場としての機能だけでなく、レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を併せ持った、地域の交流・賑わいの拠点となる施設へと転換

⇒ 第5回会議（R5.5.22）において、委員から、施設・機能の集約化に伴い生じる敷地内の余剰スペースについて、来場者の減少を踏まえた賑わい創出のため、集客の見込める屋内スポーツ施設の整備について提案があった。